



豊かな子

明るく、思いやりのある子
夢に向かって、自ら学ぶ子
身体を鍛え、最後までやりぬく子



令和7年巳年のスタート ー進級に向けてー

後期後半（1～3月）は、期間も短く、学習も習熟や定着の内容が多くなってきます。また、季節性のインフルエンザの予防にも、細心の注意を払わなければなりません。当該学年を修める期間だからこそ、チーム諫小教職員が丸となって、しっかり仕上げる、やり切る指導を進めたいと思います。ご家庭からのご支援、ご協力をお願いいたします。

【重点指導事項】

- ①当該学年の学習内容をまとめ、定着させる。
- ②学年に応じた生活習慣や規範意識、社会的行動を身に付けさせる。
- ③夢や志を高め、自分の生き様を見つめ直させる。進級への希望を膨らませる。
- ④感染症対策の徹底を図る。子どもたちの健康への意識を高め、行動に繋げる。



後期前半を振り返って 四年女児

私が後期前半にがんばったことは、三つあります。

一つ目は小音会の練習です。笑顔で歌った方が見ている人に気持ち伝わると思ったから、笑顔で歌うように気を付けました。最初は笑顔で歌っていても、途中から笑顔でなくなってしまうので、最後まで笑顔で歌えるように頑張りました。本番では上手にできたか分からないけれど、気持ちを込めて歌ったので気持ちは伝わったと思います。

二つ目は発表です。私は発表が苦手で、「まちがったらどうしよう」と思ってたかな手が挙げられませんでした。でも、勇気を出して手を挙げるようにしました。すると、「最近、手を挙げているね。」とほめられて、とても嬉しくて、手を挙げて発表することができるようになりました。

三つ目は算数の勉強です。私は算数が苦手です。特に反たちがどう考えたかを考えるのが苦手でした。先生が「解釈をします。グループの人と話し合ってください。」と言ったときドキキします。先生が私をあてた時はとてもきちょうしました。私が説明をしていて分からなくなった時は、グループのみんなが教えてくれました。私があてた時は、「がんばれ」と言ってくれました。あっている時もまちがっている時もドキキしましたが、グループの人が「がんばれ」と言ってくれた時は、がんばらないといけないと思いませんでした。まだ算数が苦手なので、得意になるように冬休みは家で自学をがんばりたいです。

それから、私は漢字が苦手で、あまり花丸がもらえないので、後期後半は前半よりていねいに書けるようになって、花丸をもっともらえるようにしたいです。がんばります。

後期前半にがんばったこと 四年男児

ぼくは、後期前半に特にがんばったことが二つあります。

一つ目は、小音会の練習です。なぜなら、四年生でしか経験出来ないことだからです。リコーダーは高い音の時、しっかりとふさいだりすることを気をつけながら、吹きました。合唱は、よい声で歌えるようにがんばりました。

二つ目は、算数の説明です。算数で説明する時は、図や数直線をつかって、みんなが分かりやすいように説明しました。また、グループで解釈する時は、自分のノートを友達に見せて、考えの流れがわかるように説明しました。むずかしかったけれど、自分の考えと相手の考えを比べたり、一つにまとめる時に、分かりやすくになりました。

後期後半にがんばりたいことは、二つあります。

一つ目は、算数の計算です。ぼくは、問題が解けてはいけるけどじっくり見直しができていなくて、小さなまちがいが多かったので、じっくりの見直しが出来るようにしたいです。

二つ目は、苦手なことを最後までがんばることです。ぼくは、苦手なことから逃げてしまったり、あきらめてしまったりすることがあるので、上手にできなくても、あきらめずにチャレンジしていきたいです。



冬休み明け集会 校長講話（一部）「後期後半に向けて」

『後期後半 1月から3月』は、1年間のまとめの期間です。6年生は、卒業式まで、47日しか小学校に登校できません。1から5年生は、ちょうど50日です。

では、この短い期間に、何をまとめるのか？

①1つ目は、お勉強のまとめです。

今、学習していることを、今の学年でしっかりできるようになる。繰り返し、練習すること。一時間一時間の学習の時間を真剣に臨み、大切にすること。

→ 心に刻んでほしいこと「**苦勞すること、楽しんでちゃだめということ**」

・苦勞の先に達成感がある。苦勞しなけりゃ、達成感は生まれない。

②2つ目は、生活のまとめです。

これまで、注意されたことを、注意されないようにすること。しなくちゃいけないことを、当たり前にする、忘れ物をしない、廊下を走らない、元気に挨拶をする、隅々まで掃除を頑張る、8時までに登校する等。友達関係では、人の悪口・陰口を言わない、うそを言わない。自分が悪い時は素直に認め、謝る。

→ ひあっしーの能力「自分に厳しく」を、みんなでしっかり身に付けていきましょう。

■学習のまとめ、生活のまとめ、共に共通して言える大事なことは、「**自分でよく考えて、自分で決めて、自分で行動すること**」です。

→ 努力は自分の意志です。自分の行動は、自分で責任をもつということです。

シリーズ親学「子どもに**生きる力**をつけさせるために」④

子どもたちが、元気に生活し、仲間と仲良くしていくために、「**折れない心**」を育てることについて、記しました。お子さんに話しかけている気分で読んでください。

「未来に希望をもとう 心は立ち直ることで強くなる」

激しく運動すると筋肉が痛くなります。でも、痛みが治る時には、筋肉は以前よりも強くなっています。

心も同じことが言えます。失敗したり、つらいことがあったり、そこから立ち直った時には、必ず以前より成長して、強い心になっています。つらい子ども時代を送りながら、苦しみに負けず、心豊かな大人に成長する人がいます。そういう人ほど、強い心をもつことは明白です。

強い心と言うのは、へこまない心のことではありません。何度もへこんだことのある心のことで、へこむことを知っている心が一番強いのです。

そういう人たちはみんな、つらい日々でもあきらめないうで努力すれば、きっと未来はよくなるという希望をもっています。今は苦しくても、くじけないで、前を向いて進んでいくことが大切です。

「めげた時には、『ありがとう』を思い出そう」

気持ちが折れそうな時は、「ありがとう」の言葉を思い出そう。先生の荷物運びを手伝った時、「ありがとう、助かったよ」と言われた。そんなふうに、誰かに「ありがとう」感謝された思い出たびに、自分が誇らしくなります。「ありがとう」と言われることを、もっとしていこうと思います。

逆に、自分が誰かに「ありがとう」と言えることはありませんか。ご飯をつくってくれる家族にありがとう。ご飯のお米を作ってくれる農家の人にもありがとう。いつも遊んでくれるお友達にありがとう。

たくさんの「ありがとう」に気づいたら、周りへの感謝の気持ちが、自然と出てがんばろうと思えてくるはず。 「ありがとう」の言葉が出てくれば、もう大丈夫。必ず前を向くことができます。